



JAPAN
MARROW
DONOR
PROGRAM

安全情報

2004 年 2 月 24 日

(財) 骨髄移植推進財団
認定施設採取責任医師 各位

財団法人 骨髄移植推進財団
ドナー安全委員会

骨髄採取後、長期に痺れが残存している事例について(通知)

さて、このたび次の事案が発生致しましたのでご連絡致します。

< 事例 1 >

提供者情報： 30 歳代 男性

診断名： 左外側大腿皮神経知覚鈍麻

経緯：

Day0 採取

Day +1 左外側大腿部知覚鈍麻あり（採取時大腿皮神経障害の可能性あり）

Day+2 退院：大腿部触覚はなし、温冷覚の鈍麻あるも他データに問題なく帰宅。

Day+45 受診(採取施設)：痺れ感軽減

Day+101 受診(採取施設)：症状変化なし

Day+206 受診(採取施設)：症状変化なし

採取担当医師より、症状固定との告知あり。

ドナー希望により、Day+230 に他院に受診。

術中の体位によって、大腿神経が圧迫されたことによる末梢性の知覚異常ではないかと考えられた。

< 事例 2 >

提供者情報： 20 歳代 男性

診断名： 術中外側大腿皮神経の進展による末梢性の知覚異常

経緯： 経過観察中

骨髄穿刺を繰り返す中で、鼠径部から大腿前部にかけて皮膚が引き延ばされる状態となり、外側皮神経が進展されたことが原因と考えられた。

< 再発防止策 >

原因の詳細は不明ですが、いずれにしても前腸骨棘のすぐ内側で鼠径靱帯の上を越えて行く大腿部外側皮神経の長時間の圧迫によると思われます。

同部位を圧迫しないよう腹臥位の体位、採取時間等にご配慮ください。

以上をご確認の程、お願い申し上げます。

以上

財団法人骨髄移植推進財団
ドナー安全委員会
(事務局 担当:折原)
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町 3-19
廣瀬第2ビル 7階
TEL 03-5280-2200
FAX 03-5283-5629
E-mail: orihara@jmdp.or.jp